

平成28年度 第1回佐久市総合教育会議

日時：平成28年12月8日（木）

午前11時00分～正午

場所：佐久市役所5階 501会議室

1 開会

（矢野企画部長）

定刻となりましたので、これより平成28年度第1回佐久市総合教育会議を開会いたします。佐久市役所企画部長の矢野でございます。

始めに、柳田市長から、ごあいさつをお願いします。

2 あいさつ

（柳田市長）

教育委員の皆さん、本日は平成28年度第1回佐久市総合教育会議にお集まりいただきありがとうございます。

今回は、平成28年度の第1回ということで「実施計画における教育関係施策について」の報告と、「2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会におけるホストタウン交流計画について」意見交換ができればと考えております。国は、オリンピック・パラリンピック開催に向けスポーツ立国、グローバル化の推進、地域の活性化、観光振興等に資する観点から参加国との人的・経済的・文化的な相互交流を図る地方公共団体を「ホストタウン」としており、本市もエストニア共和国のホストタウンとして登録されております。

開催まで4年を切り、今後エストニア共和国とホストタウンとしての交流事業が具体的なものとなっていく中で、市長部局と教育委員会部局の連携がより重要になっていくと考えております。

この会議を通じまして、教育委員の皆さんと考えの共有をする中で、より良い交流の在り方を検討していければと思います。

最後に、より率直な意見交換の場となることをご期待申し上げて、甚だ簡単ではありますが、ご挨拶とさせていただきます。

本日は、よろしく願いいたします。

（矢野企画部長）

続きまして、榭澤教育長からご挨拶をお願いします。

(榑澤教育長)

皆さん、改めましておはようございます。私からは本日の意見交換のメインテーマに関係して、学校現場におけるオリンピック・パラリンピックに関する取組について、若干触れさせていただきたいと思います。

学校における取組としましては、ホストタウン登録を申請する際の交流計画において、エストニア共和国の子ども達との相互交流を2017年より始める旨を記載しております。現在、その実施に向けた検討を行っているところでございます。

また、国においてオリンピック・パラリンピックにおける教育プログラムとして、政府や自治体、スポンサー企業等と連携、協働しまして、若い世代を鼓舞する取組を一体となつて継続的に行っていく「東京2020教育プログラム」に愛称が用意されていまして、それが「よい、ドン!」というそうですが、これが展開されようとしています。この教育プログラムも活用しながら、ホストタウンであることを絶好のチャンスとして、各学校の教科、総合的な学習の時間や特別活動といった教育課程の中でオリンピック・パラリンピックに関する学習、そして貴重な交流等も通しながら、受け入れるエストニア共和国の理解を深める学習を位置づけるなど、佐久市ならではの創意工夫を凝らしたオリンピック・パラリンピック教育、国際理解教育が展開できるものと見込んでおります。

市教育委員会としましては、市長部局と連携する中において、未来を担う子ども達が互いの国や地域の文化、価値観等に触れ、国際感覚を醸成する大変貴重な機会となるよう努めてまいりますので、よろしく願いいたします。以上、冒頭のご挨拶とさせていただきます。

(矢野企画部長)

ありがとうございました。それでは、お手元の次第3番になりますが、報告事項に入りたいと思います。

(榑澤教育長)

最初に宜しいでしょうか。予定されていた報告事項の前に、一つ報告をさせていただきます。

望月小学校教諭の酒気帯び運転による現行犯逮捕という事案を受けて、その後についてご報告をさせていただきます。

主に2点でございます。1点は事件発生後児童、保護者に対してどのような対応をしてきているか、そして、現状児童がどのような状況にあるのか、これが1点目です。それから2点目はその後の学校の対応の中で非違行為の防止、あるいは

は根絶に向けてどのような取組が展開されているのか、このような2点についてよろしくお願いします。

事件発生後の児童、保護者への対応の中で主に4点をお話させていただきます。1つ目ですが、望月小ではこの事件が起こったのが11月12日でありましたが、その12日夜に保護者説明会を開催しております。12日が土曜日でしたので日曜日が開けた月曜日の14日には、全校集会を開きまして校長から事件の概要を報告しました。保護者説明会では、逮捕された教諭に対する非難の声というよりは、これからどうなっていくのかということに対する心配の声が多かったということでもあります。2つ目ですが、5年1組であります。今、担任がいない状況でありまして、その担任の替りに教頭が担任として教室に入っております。授業が遅れないように通常通り学習が行われるよう、教頭を中心に学習を進めております。3つ目でございます。学校と市教委の願いに沿って長野県教育委員会から県費の補充者、担任に替わる補充者ですが、それを付ける方向で今進んでおりまして、現在その補充者を探しているところであります。事件発生から約1か月近くになろうとしているわけではありますが、補充者が見つければ配置することができるかと考えております。子ども達は大変落ち着いて学習に打ち込んでいるという報告が、昨日も校長からあったところです。4つ目、子ども達に対して本市のスクールメンタルアドバイザーを事件後1週間は毎日訪問させていただきました。その後は週に3日、現在は週1日と頻度は少なくしておりますが子ども達のケアに当たらせていただいております。当初は一部子ども達の中に動揺が見られましたが、現在は元気に学校生活を送っているという状況でございます。なお、県のスクールカウンセラーも学校訪問を行っております、ケアに当たっているところであります。カウンセリングはいつでも行いますよとしておりますが、現にカウンセリングを行ったということは報告を受けておりません。

それから、大きい2つ目の学校のその後の非違行為防止、あるいは根絶に向けた動きでございます。まず、16日に市内の校長会におきまして私のメッセージをお伝えして、そのメッセージを読み上げながら職員一人ひとりの心に響くようなそんな話をさせていただきました。各学校での対応や取組について地域への発信も含め対応をするように指示をしたところであります。それを受けまして、各学校においては臨時職員会を開き、教育長メッセージを基にしながら全職員に周知、あるいは研修の場を設けたということでもあります。そして、これは県教育委員会からの指示でもありますが、飲酒運転根絶の取組の徹底についてということで、県下小中学校に通知が配布され、今回新たな取組として、各学校どんな研修を行って、防止に向けてどんな取組をしていくのかということを保護者や地域に発信しなさいというメッセージも添えられているわけでもあります。

それも各学校では既に発信したところもありますし、これから発信しようとしているところもあります。学校便りであるとか、参観日を利用してとか、さらにホームページを利用してとか、色々な方法で学校の姿勢をお伝えして信頼回復を図っているというところでもあります。

以上、ご報告をさせていただきました。子ども達が一日も早く、新しい担任が配置される中で2学期の後半、3学期に向けて充実した学習ができるように願っております。

ありがとうございました。

3 報告事項

実施計画における教育関係施策について

(矢野企画部長)

それではお手元の資料1でございますが、実施計画におけます教育関係施策について、事務局から説明をさせていただきます。

(佐藤企画課長)

私から資料1 第二次佐久市総合計画実施計画(案)について説明させていただきます。

実施計画ですが、29年度から31年度までの3か年計画でございます。また、(案)ということで付けさせていただいてございますが、現在実施計画の基礎となる第二次佐久市総合計画基本構想を開会中の議会、第4回定例会に上程をさせていただいているところでございます。本日報告させていただきます実施計画につきましては(案)とさせていただいていることについてご承知をお願いいたします。

1ページをお願いいたします。実施計画の趣旨ということでございます。実施計画については、具体的な事業を計画的かつ効果的に推進するため、向こう3か年間の短期的な計画をお示ししているものでございまして、予算編成や事業実施の指針となるものでございます。これを毎年度ローリング方式で見直しているところでございます。現在当初予算の編成作業中でございます。この実施計画の策定と時間差等ある中で、事業内容、補助制度等の内容を今、精査しており、一部変更がされてくるというところでもあります。ですので、実施計画に盛り込んだ事業が、そのまま全てそのとおり事業化されるものではないということもご理解をいただきたいと思います。

3ページをご覧いただきたいと思います。実施計画の対象事業ということで、記載させていただいてございます。1といたしまして、対象事業費が1億円以上

の建設事業、2といたしましてソフト事業については、新規で単年度事業費100万円以上のものを基本として、事業を挙げさせていただいているということです。実施計画の構成につきましては、図で施策の大綱ということで示させていただいております。第二次総合計画の「快適健康都市、希望をかなえ選ばれるまちを目指して」という将来都市像を実現するために、この7つの柱を建ててということでございまして、教育分野につきましては「(1)生涯にわたり学び、生きる力を育むまちづくり」としております。本日は、教育分野の具体的な事業につきまして、主に新規事業を中心にご説明させていただきます。

7ページをお開きください。こちらが教育分野に関するものでございます。まず番号3番になります。臼田地区新小学校整備事業でございますが、引き続き臼田地区での新小学校の開校に向けて、施設整備を進めていくというものでございます。次が6番になりますが、就学支援事業であります。現在、就学支援相談員4名という事で配置をしているところでございますが、こちらを1名増員いたしまして5名体制としていくというものでございます。次に10番、一番下の行になりますが、小学校トイレ洋式化等改修事業というものでございます。小学校トイレについてですが、洋式の割合が低い学校を対象にし、順次洋式化を進めていこうというものでございます。あわせて一部の小学校においては、悪臭対策を実施するという内容になっております。ただし、全てのトイレを洋式化するというのではなく、和式のトイレも一部残していくということで計画を進めていくということでございます。次に8ページをお願いいたします。12番でございますが、望月小学校スクールバス停留所整備事業でございます。望月小学校の隣に協和保育園がございますが、現在望月地区の4保育園を統合するという事で整備を進めているところでございまして、協和保育園については、新保育園が整備された後は使わなくなるということでございます。その跡地について、施設を除却した後望月小学校のスクールバスの停留所に活用しようということで整備をしていくということでございます。次に15番であります。コスモホール周辺整備事業でございます。臼田のまちづくりということにあわせまして、勝間園の移転ということを進めるということになってございますが、勝間園の跡地、コスモホールが隣接している跡地となりますが、こちらを駐車場として整備していきたいという事業でございます。次が16番になりますが、野沢会館整備事業でございます。野沢会館の老朽化が進んでいるということもございまして、こちらの整備について調査をまず行っていくという内容になっております。1ページおめくりをいただきまして、9ページをお願いいたします。中段になりますが、25番東会館整備事業でございます。こちらにつきましても、耐震診断等調査を実施いたしまして、その後の整備方針を定めてまいりたいと考えているものでございます。27番、28番は図書館に係る事業になります。27番

が移動図書館車更新事業でございまして、各地域に出向いて図書館となる「草笛号」ですが、老朽化が進んでいるということもありまして、新たな車両に更新するということ。28番の読書推進事業では、現在ブックスタートというものを行ってございますが、3歳児のお子さんに絵本を贈るセカンドブック事業を実施していこうということ計画しているものです。次に29番創錬の森整備事業でございまして。県立武道館誘致というものが決定をしたところでございまして、創錬の森ということで整備促進を図ってまいるといふものでございまして。次に10ページになります。31番となりますが、本日のテーマとなります2020年東京オリンピック・パラリンピック関連事業というものでございまして、オリパラ開催を見据え各種交流事業、事前合宿等の誘致を図っていくという事業でございまして。

あわせてご紹介させていただきたいと思いますが、市では総合戦略というものを策定いたしまして、若い世代の希望をかなえ、選ばれるまちを目指していくということ、結婚から出産、子育てまで、ライフステージごとに切れ目のない支援の充実を図ろうということに取り組んでいるところでございまして。18ページで一例といたしまして、いくつかの施策を載せているところでございましてご紹介させていただきます。保健福祉分野に関わるものでございまして、12番になりますけれども、新規事業で児童発達支援体制等調査事業というものです。発達障害児を対象といたしまして、現在療育支援体制を構築しているところでございまして、こちらについて調査をし、体制の方を改めていきたいという内容でございまして。13番については、おたふくかぜワクチンの任意接種費用助成事業で1歳児へのお子さんの接種費用の一部助成となります。14番では児童福祉医療費給付金対象者拡大事業ということで、児童福祉医療費、お医者さんにかかった時の医療費について18歳まで支給対象を拡大していこうというものになります。17番であります。これは継続事業ですで行ってございまして、保育料負担軽減事業というもので、保育料の第3子以降無料化について引き続き継続し、子育て世代の経済的負担の軽減に努めたいとしております。これによりまして切れ目のない子育て支援の充実を図ってまいりたいと考えているところでございまして。

概要について、かいつまんで説明をさせていただきました。その他のものについても、あわせてご覧いただければと思います。説明については、以上です。

(矢野企画部長)

ただ今、教育委員会関係の実施計画における施策について、説明をさせていただきました。ご不明な点、ご意見いただければと思います。

(特に意見等なし)

(矢野企画部長)

よろしいでしょうか。それでは何かありましたら教育委員会、企画でもかまいませんのでお問い合わせいただければ対応させていただきたいと思います。

それではお手元次第4番の意見交換に入らせていただきます。ここからの進行は柳田市長お願いします。

4 意見交換

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会におけるホストタウン交流計画について

(柳田市長)

はい、それでは今回の意見交換は2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会におけるホストタウン交流計画についてでございます。現状等につきまして、事務局からまずは説明をいただきました後、進行してまいりますので説明をお願いします。

(土屋体育課長)

体育課長の土屋でございます。私の方からは、ホストタウン交流計画の概要についてご説明をさせていただきます。まず、資料2の1ページをご覧ください。

1番でございますが、国の考え方としまして、先程市長のご挨拶にもございましたとおり、東京オリンピック・パラリンピック開催に向け、参加国や地域、こちらは非独立国のチャイニーズタイペイだとか、中国の香港というようなものがございます。これらとの人的・経済的・文化的な相互交流を「ホストタウン」として全国に広げていくこととしております。レガシーの創設、創造というようなことでよく称されています。

2の定義でございますが、住民等とここに記載してございます項目の取組を行う地方公共団体で、内閣官房東京オリンピック競技大会・パラリンピック競技大会推進本部事務局の審査を経て、登録を受けたものとしてございます。登録に当っては地方公共団体が合同での登録も可能となっております。

3番の登録概要でございますが、先に申し上げました推進本部事務局に交流計画を提出しまして、その交流計画が要綱に合致し、かつ確実に大会後も継続的に実施される見込みがあるなどの審査を経て、ホストタウンとして登録されるものがございます。

現在の登録状況でございますが、(3)の記載のとおり、1次登録と2次登録を合わせまして91件がホストタウンとして登録されております。3次登録につきましては12月上旬に発表されるとの予定ですが、現在まだ発表されておられませんけれども、長野県と上田市などが中国をホストタウンとして登録を申請するという話は伺っております。

4のホストタウン推進のための地方財政措置につきましては、このホストタウンに登録されることによるメリットとしまして、(1)の交流事業の経費につきましては2分の1を特別交付税で措置されることとなっております。(2)の施設につきましては、現在当市では対象はございません。

2ページをご覧ください。ホストタウンに登録された団体の全国分布でございます。モンゴルなど国名が複数記載のある国につきましては、競技種目ごとに事前合宿地が異なるなどの理由によって、重複の登録となっております。佐久市につきましては、資料中央上段の北陸・中部の右側に赤線で囲んでお示してございますのでご確認をいただければと思います。

3ページをご覧ください。当市の交流計画の概要でございます。最初に左の欄の2016年、平成28年から2020年、平成32年の大会開催まででございます。上段は、現在までに交流事業としまして佐久市が取組を実施した内容でございます。この後、担当課より画像を交えて説明をさせていただきますので、個々での説明は割愛させていただきます。下段は、登録された交流計画で、最下段のオリンピック・パラリンピアンを招待しての市民交流イベントにつきましては、一部実施している部分もございます。2020年、平成32年の大会中でございますが、集会施設でのパブリックビューイングの実施や、応援ツアーを計画し競技会場で直接応援することなどを予定しております。2020年、平成32年の大会開催直後からにつきましては、出場選手等を招きまして温泉で体を休めていただいたり、佐久のグルメなどを味わっていただくなど市民の皆さんと交流することにより懇親を深めたいと考えております。概要につきましては、以上でございます。

続きまして、担当課からこれまで実施してきている取組について、画像と一緒にご説明をさせていただきます。

体育課からは事前合宿誘致や日本人オリンピック等との交流についてご説明させていただきます。事前合宿誘致につきましては、駐日エストニア大使館を市長と私の方で訪問した際、また、市長、市議会議長がエストニア陸上競技協会に誘致活動を行った際に、隣国デンマーク、ノルウェー、フィンランドとの合同合宿も考えているとのお話もいただいております。エストニアの陸上競技は、実際に2015年の世界陸上北京大会の事前合宿をデンマーク、スウェーデンとの3カ国で、2008年の北京オリンピックにはフィンランド、アイスランド、エ

ジプトを加えた6カ国合同で実施しております。これらのことから、本市としましては、エストニアはもちろんでございますが、他の北欧、バルト7カ国を視野に入れ、事前合宿誘致を行いたいと考えております。また、県立武道館の当市猿久保、創錬の森への建設の決定、野球、空手、ソフトボールなどの開催競技の追加の決定も踏まえ、事前合宿誘致に取り組んでいく必要があると考えております。

(画像①②)こちらの方が、今年の1月13日から19日まで市長と市議会議長がエストニアの150周年の記念式典に招待された際に、フィンランドのヘルシンキ市におきまして、フィンランド陸上競技連盟のヨルマ・ケンパイネンヘッドコーチらに対しまして、フィンランド日本大使館の協力も得て誘致活動を行っております。PR動画やパワーポイント、画像、リーフレットなどを使用しましてご説明をさせていただいております。

(画像③④)次が、エストニアでの誘致活動となりますが、1月15日にエストニア共和国のタリン市でエストニア共和国陸上競技協会のシリエ・リップペ事務局長らに対しまして、エストニア国のサク市のティート・ヴァヘノム市長とタネル・オッツ市議会議長にもご同席いただきまして誘致活動を行っております。

(画像⑤⑥)こちらにつきましては、本年4月6日にエストニア共和国のターヴィ・ロイヴァス首相、当時でございますが、明治記念館でエストニア大使館主催の歓迎会に市長と市議会議長が招待され、出席し懇親を深めております。

(画像⑦)また、4月8日には安倍首相主催の歓迎会に市長が招待され出席をしております。

(画像⑧⑨⑩)佐久市におけるオリンピック関連の出来事でございますが、こちらにつきましては、本年8月8日にブルーマリンスポーツクラブ佐久におきまして、トライアスロン競技の日本代表の上田藍選手、左側でございますが、それと加藤友里恵選手が大会前の事前合宿を佐久市で行ってまいりました。この合宿の時に市長が訪問をいたしまして激励をしております。

(画像⑪)また、本年はリオ五輪の開催年でございます。7月22日には佐久市出身の川元選手、佐久市に縁のある大迫傑選手の応援横断幕を作成し、市庁舎、佐久平駅に掲示しております。

(画像⑫⑬)また、7月25日には佐久平総合技術高等学校、野沢中学校におきまして川元選手をお招きし激励会を行いました。この際に市長から激励の言葉と、市からの激励金をお送りしております。

(画像⑭⑮)8月12日、14日、17日には、佐久情報センターにおきまして川元選手、大迫選手の出場する試合のパブリックビューイングを行っております。

(画像⑯) 川元選手におかれましては、11月9日に佐久市庁舎を訪れていただきまして、リオ五輪出場の偉業に対しまして特別表彰を行ったところでございます。

(画像⑰⑱) こちらは、第26回の佐久市ハーフマラソン大会でございます。佐久総合運動公園陸上競技場におきまして、リオ五輪カンボジア代表の猫ひろしさん、東京国際女子マラソンや世界陸上選手権女子マラソンで活躍をされた嶋原清子さんをゲストランナーとしてお招きしまして、大会参加者の皆さんと交流を行ったところでございます。体育課からは、以上でございます。

(木次生涯学習課長)

引き続きまして、生涯学習課長の木次でございます。私の方からは、ホストタウンのメニューにもございますエストニアサク市との子ども交流につきまして、本年度の交流内容と来年度以降の計画について説明をいたします。

(画像⑲⑳) エストニア共和国サク市との子ども交流につきましては、本年1月に結びました子ども交流の「協力覚書」に基づきまして、今年度から交流が始まりました。

(画像㉑～㉒) 今年度のこども交流の内容でございますが、エストニア共和国サク市の中学生6名と高校生1名の7名と、引率2名及び通訳1名の合計10名の皆さんを、10月24日(月)から31日(月)の8日間、佐久市で受入れを行いました。滞在中の研修及び交流内容につきましては、佐久市及び佐久市議会への表敬訪問、佐久インターでの植栽イベントへの参加、ホームステイ、市内施設見学のほか、臼田中学校での体験入学により生徒との交流、また、野沢小学校訪問による児童との交流などを行いました。両学校の大変な歓迎と交流を通して、エストニアサク市の研修生は大変感激しておりました。また、臼田中学校、野沢小学校の生徒、児童ともに大変な盛り上がりでございまして、別れの際には感激のあまり涙を流している子もおりました。初年度ではありましたが、これらの研修及び交流を通しまして、日本の文化・風俗・習慣を理解してもらうとともに、子ども交流により友好関係が大変深められたと実感しております。

また、来年度からの計画でございますが、こちら佐久市からは来年7月下旬から8月上旬にかけて、8名の中学生と引率2名でエストニア共和国サク市へ訪問いたします。また、エストニアサク市からは10月下旬に生徒8名と引率2名を受入れいたします。お互いの国の文化、風俗、歴史、習慣を理解することと、お互いに英語による交流ができるようになっていけば良いなど思っております。以降は、毎年相互交流を継続していく予定でございます。私からの説明は、以上でございます。

(武者観光交流推進課長)

引き続きまして、観光交流推進課長の武者と申します。私からは、バルト氏の親善交流大使任命等につきまして説明をいたします。

(画像③) 今年の11月16日、東京の都市センターホテルで開催されました佐久市ゆかりの交流会「東京イブニング」におきまして、画面ではちょうど右側になりますエストニア共和国出身で大相撲元大関の「バルト氏」を親善交流大使に柳田市長から任命をいたしました。バルト氏は、日本で人気があり2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けまして、市民の皆様にもエストニア共和国を知ってもらうため、佐久市内のイベントに参加をさせていただくなどご協力をお願いしてまいります。また、現在エストニア共和国の観光大使でもあり本国での知名度が高いことから、エストニアにおける佐久市の情報発信もお願いしてまいります。

当日は、画面では左側になります前在エストニア共和国日本国大使館の特命全権大使である甲斐哲朗氏に、エストニア共和国との交流に係るアドバイザーを任命いたしております。甲斐氏におかれましては、これまでの大使館時代に培われた知識や経験に基づきまして、エストニア共和国と佐久市の交流についてご助言をいただいております。

(画像④) また、次の画面になります。左から2番目の方は、駐日エストニア共和国特命全権大使のヤース・レンスメント大使でございます。今後におきましても、エストニア共和国ホストタウン交流事業の取り組みにつきましても、経済部観光交流推進課におきましても具体的に検討をしてみたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。私からの説明は以上です。

(柳田市長)

はい、現在までの状況について説明を申し上げたところでございます。この後取組について意見を交換させていただきたいと思っておりますが、その前にせつかくでございます。原委員さんにおかれましては、アテネオリンピックの女子バスケットボール日本代表の団長を務められていらっしゃるわけでありまして、オリンピックや国際大会の時のアスリートの様子、開催国での交流の様子などもご経験、ご体験もあろうかと思っておりますので、口火を切っていただければありがたいと思っております。よろしく願いいたします。

(原委員)

今、市長の方からご紹介がありましたとおり、私は2003年に日本バスケットボール協会強化部長という、女子の小学生からプロに至るまで全ての女子の

最高責任者という立場を拝命いたしました。2003年の12月からオーストラリアを始め色々なところに遠征をして、2004年の1月に仙台でアジア選手権兼アテネオリンピック予選というものが開かれました。その時に予選では韓国に32点という大差で負けまして、予選では韓国1位、2位中国、3位が台湾、4位が日本という順位でございました。従いまして、決勝トーナメントでは1位と4位がいきなり当たるわけで、1位と4位でやりました。その結果、1試合終わったら同点になり、5分の延長になりまして、また同点になりました。再延長になりまして9点差で勝って、オリンピック出場が決まると、こういう経過がございます。

それ以降、日本がアテネオリンピックに出場するという事でアメリカ、カナダから招待を受けました。特にアメリカにつきましては、世界のナンバー1中のナンバー1という国でございますので、向こうで3試合やりましたけれども、全く歯が立たないというか、彼女達は皆プロでありまして、だいたい3億円ぐらい報酬を貰っていると。日本人は、その当時プロはいませんでした。そんな経験もしてまいりました。その後、バルト三国の1つでありますリトアニアで国際親善大会がありまして、そちらに参りました。リトアニアはバルト三国ですから隣の隣がエストニアになるわけです。一番感心したのは、バスケットとはあまり関係がありませんが、街がきれいということと、もう一つはご存じの外交官でありました杉原千畝さんがユダヤ人を救った、ビザを発給したということで非常に親日の国でありました。そこで、ベラルーシとリトアニアと国際親善試合をやりまして、それからスペインに入りまして遠征試合をやってまいりました。そういった色々な遠征試合の中で選手は本当にタフなんですね。食事も日本食というわけにはまいりませんが、選手は何でも良く食べますし、私などはその国の食べ物があまり気に入らないと、あまり食べられなかったのですが、選手は本当に良く食べて、さすがに体力維持というのはすごいなあと思いました。彼女達のメンタル面は本当にすごいものがありまして、まさに日の丸の重みですね。これは本当にすごいものでして、例えば練習でも練習が終わってバスが迎えに来るまで自由練習をやるのですが、その自由練習をバスが迎えに来ても止めない、早く帰ろうと言ってもなかなか止めない、そんなすごい彼女達でありました。

いよいよアテネ本番ということでアテネに入りまして、私達は私と、当時の日本協会の専務理事の二人はオリンピックの選手村には入らなかったんですね、というのは選手村に入ってしまうと色々動きが制約されるということがありましたので、私達はすぐ近くのホテルに入りました。当然そこで練習とかに試合が始まる前に行くのですが、このセキュリティが素晴らしいというのか、すごいというのか、軍隊が本物の銃を持って何回もチェックしないと入れない。練習場ですら入れない。もちろんIDカードを持っていてもヨーロッパは国が繫

がっておりますので危険な状況がありましたので、そういう経験もしてまいりました。

アテネで一番目についたのは、「Welcome home Athens」という大きな垂れ幕があちこちに、100年ぶりか104年ぶりにアテネにオリンピックが戻って来たということで、国を挙げてのそういった大歓迎のムードがありました。いよいよ開会式となったわけでありませうけど、開会式は本当に直接見るとテレビの感動とは全く違う素晴らしい感動というものを感じました。もう言葉にならないぐらいの素晴らしい感動で、ああいうことを子ども達に見せてあげられれば、本当に自分があなりたいという夢というものがすごく持てるし、とっても教育的にも良いなあとそんな感じを受けました。

それから、試合会場は、海の近くにある元飛行場を改修して、飛行場を他に移して色々なものを集中してそこに作ったんですね。バスケット会場、バレー会場、フェンシング会場あるいは野球場もありまして、もっと言えばボート会場なんかもあるという非常に多種多様な会場でありました。目の前は海でありましたし、環境的には非常に良い場所でありました。街からは車で30分ぐらいの場所でありまして、私は女子の試合はもちろんですけれども、試合的には、女子、男子、女子、男子と1日おきにやっていくわけなんですけれども、翌年男子の世界選手権が埼玉県大宮のさいたまアリーナで行われることとなっておりますので、全ての試合を朝から晩まで全部見てまいりました。

バスケットはもちろんですけれど、野球がたまたますぐ近くでしたので見に行ったのですが、谷選手、やわらちゃんですね。今は引退しましたが、当時谷選手と婚約をしていた年なのでやわらちゃんも応援に来たりしておりました。ちょうどキューバ戦でした。これは野球の予選でありましたが、最後に中日にいた和田選手がホームランを打ってキューバ戦は勝った。そんな試合も見てまいりました。会場の関係ですけど、会場はもちろんしっかりはしていましたが、一部が仮設スタンドみたいな感じで私達は予選で最後に地元ギリシャと戦った時に、これは我々が予想していた通り、同じ1勝4敗同士の戦いで勝った方が決勝トーナメントに行ける、そういう状況でありました。思った通りになりまして、試合が始まっていきなり向こうが2点入れたんですね。マイボールになってスローインするといった時にもう大ブーイングと、上の方が仮設のスタンドだったものですからものすごいドンドンと足を踏み鳴らすその凄さによって、日本選手もさすがにびっくりしてしまって0対12というそんなスタートになりました。慌ててタイムアウトを取ってですね、立て直して結局最終的に残り2分まで6点勝っていたのですが、最後の最後に2点差で残念ながら負けてしまった。そういった苦い経験もあります。

本当に先程も申し上げましたが、セキュリティに対しては、練習会場はもち

ろんですけど、本会場もゲートに入ってから何回もセキュリティをするということ、当たり前といえば当たり前のことなのかもしれませんがそんな感じで、結果的には、全く安全なオリンピックであったと思います。

中身というか、今回の意見交換と離れたかもしれませんがオリンピックに関係したお話を多少ですけれどももさせていただきました。

(柳田市長)

はい、ありがとうございます。オリンピックの感動を子ども達にも味あわせてあげたい。そんなことが大変大きなヒントになるのかなと思っております。以降につきまして、意見交換という形で皆さんの方からもご意見や、あるいはアイデア等ありましたらお伺いしていきたいと思いますがいかがでしょうか。

(棚澤教育長)

過日、議会でも答弁の中に盛り込まさせていただいたのですが、私達はホストタウンということで登録をされ、2020年に向かっているのですが、子ども達は、「ホストタウンって何？」というレベルの実態があらうかと思えます。よって、まずなすべきはホストタウンってこういうことなんですよ。そして、これからこんな取組をしようとしているんですよ。というようなことを学校の子ども達向けに、3年生以上ぐらいの子どもが十分理解できるようなメッセージを、情報を、関係課が協力して情報誌を作って全員に配布するというような、そんな取組をしていく必要があると思います。

そんな中で、私達が知恵を出してこんな交流ができるのかな、あんな交流ができるのかな、こんな取組もと思うわけですが、実は子ども達はアイデアマンです。是非こういう機会にうちの学校では、あるいは佐久市の学校みんなで協力して、こんなことやりたいというようなアイデアの募集をしたいなど、そうすることによって子ども達がより前向きにホストタウンにおける自分達の実践が構想できるのかなと思っています。そんなことを大事に取り組んでいきたいと考えているところであります。

(柳田市長)

子ども達の発想による交流ということですね。他にもいかがでしょうか。

(青柳委員)

交流の関係で外国からの研修、高校生や何かを受け入れた時に非常に感激する事柄としては、放課後の部活動、歌とか吹奏楽とか劇とか、こんなにレベルの高いことをやっているのですか、ということで驚くことが多いそうです。やはり

日頃やっていることの延長というか、特別新しいことをやるよりも日ごろの成果を使って交流するというのを大事にしたいと思います。

あと、全然違う1点ですが、オリンピックやパラリンピックには、基本的にオーガニック食品、無農薬、有機栽培の食品を提供するというのが国際的な原則になっているらしいのですが、そういう点からいくと佐久市では学校給食に有機栽培の農薬を出来るだけ少なくしていくといたことをして、それが生かせるのではないかと、有機というものが、国によっては大企業が基準を緩めてしまって有機と言えるのかわからないということはあるみたいですが、佐久市で皆さんやっちらっしゃるものは、本当に有機と言えるようなものでやっちらっしゃるのでそれを生かしていく方法が取れるのではないかと思います。

(柳田市長)

なるほど。エストニアとフィンランドの陸上競技協会の皆さんとお話をした時に食事の提供に関する話題に及びまして、ベジタリアンも居れば、お肉を召し上がる方も居たり、色々なバリエーションがあるのですが、それに対しての対応ができるかという質問がありました。有機であるなしということは問い合わせがございませんでしたが、きっとそれはスタンダードなのかもしれません。それについては、比較的バリエーション豊富に日本では提供ができると思いますよと、お話しをさせていただいたところです。オリンピックにつきましては、いつ入って、いつアウトするか、インアウトに関してははっきりしませんが、7月の24日が開会日であったかと思いますが、夏の時期7月、8月であれば野菜等オーガニックのものに関しても豊富な時期でもありますので、青柳委員がお話になられた市内のものであってもできると思います。

川元奨選手にお聞きすると365日24時間対応でドーピング対応するのだそうです。ですので、自分は何月何日の何時から何時はどこにいるということを登録して、いつドーピング検査が来るのか分からないのだそうです。ご自宅に居て午前6時に来たこともあるそうです。ドーピング検査をやるのでということで尿検査になるのでしょうか。

(原委員)

はい。ではその話をさせていただきますと、先程遠征に行ったリトアニアで、ホテルに着くと、ドーピング委員が2人、いきなり来たんです。それでドーピング検査をやりますと、12人選手がいるのですが、くじで決めるんですよ。それで、くじで決まった2人が実はアテネオリンピックの予選の仙台で試合が終わったと同時に2人選ばれてドーピング検査になったのですが、全く同じその二人が当たってしまったんですね。ドーピング検査はものすごく大事なことなの

ですけど、選手にとっては大変な作業となります。

(柳田市長)

事前合宿については、専門家の方からもご指導いただきながらやっていかなければいけないかなと思います。どうでしょう、他に交流についてご意見は。

(鈴木委員)

母親の立場からしますと、食文化の交流というのを是非やっていただきたいなと思います。聞くところによりますとエストニアの方達は、蕎麦の実を食べたりもするそうなんです。寒い地域ですので、スープなどの食文化もすごく発達しているらしいので、多分この佐久にももしかしたら根付いたりするのかなと思いますので、子ども達も親も含めて食文化の交流をしていただいて、佐久市のお母さん達はエストニアの料理が作れるんだよ、という風になったら素晴らしいかなと思いました。

(柳田市長)

きっとそういうのは、事前合宿でなくても子ども達の交流の中で組み入れられるかもしれないですね。

(棚澤教育長)

給食での特別メニューも考えられますよね。

(増田委員)

全般的に素晴らしい企画で、取組であろうと思っています。その中で、今のドーピングであるとか技術の問題で言うと、当然お考えであるでしょうけど総合的に対応する事務局的なところがやっぱり必要で、細部にわたってピシッと点検して確認していかないといけないと思います。

各小学校で種々創意的な取組が展開されることは、実に大切なことと思います。それに加えて、地域、地区の取組も受け入れる窓口を用意しておきたいと願います。具体的には、地区での青少年健全育成の会、スポーツ少年団等です。御承知のように地域のつながりの薄れゆく昨今、取組を通して地域内の人的交流が深まり、活性化していく一助になれると思うからです。ご検討いただけるとありがたいところです。

もう一つ、最後に基本的な質問ですが、モンゴル国ともずっと親しさを重ねてきていますが、モンゴル国とはどのような形になっているのでしょうか。

(柳田市長)

東京の在日大使館においては、3カ国に対してアプローチをしています。こちらの方でエストニアとモンゴルとフランスがあります。交流を進めている中においてそれぞれアプローチをしておりますけど、すごく大きい選手団としてフランスはありますし、武道としてのモンゴルというのもあるでしょうし、そういったものに関して今後大使館を通じてアプローチをしていくということになりましようけど、実はエストニアという国は日本で交流をしている唯一の都市がこの長野県佐久市ということですので、エストニアという国に関しては、非常に私ども長野県佐久市に対する期待が大使館も、在エストニア日本大使館においても大きいかなあと思っています。

ですので、今エストニアにいらっしゃる柳沢さんという女性の大使でいらっしゃいますが、佐久の方へおいでいただくようなことも、そして皆さんとの交流もできれば良いかなと思っております。エストニアが非常に先行しているのかなあという感じがしております。他の国も行っておりますけどモンゴルのホストタウンは他にもあったりもする中、今後モンゴルをホストタウンとして増やす可能性があるかもしれませんが、動きとしてはエストニアが先行しているという状況にあります。

(増田委員)

わかりました。

(原委員)

1つよろしいですか。東京2020教育プログラムというものが発表されました。その中でこのプログラムの目的というものがあまして、教育委員会や学校と連携して児童生徒がオリンピック・パラリンピック、スポーツの価値を学習する機会や多様な国の文化に触れる機会、アスリートと交流できる機会等を促進し次世代を担う人材を育成する。これが目的ということでもあります。まさにこの通りだと思います。子ども達が非常にこういうことによって健全に育つということは間違いないと思いますので、この東京2020教育プログラムにも当市も参加をして、これは当市と言うよりは学校単位でございますけど、是非これを進めていきたいと教育委員会では考えているところであります。

(柳田市長)

この教育プログラムのエントリーは学校ごとでするのですか。

(棚澤教育長)

実施希望学校を教育委員会でまとめて、県経由で出すこととなります。

(柳田市長)

なるほど。是非、そんな取組の中で学校の意欲的なものについて情報提供するようにしていければと思います。

時間も迫ってきている中において、最後に私から申し上げさせていただくのは、これは国内外問わずですけれども、交流事業を行っていく中で常に感動をいたします。その感動の理由というのは、フランスに行った時に同行の方に言われましたけど、「会ったことのない人、行ったことのない国なんだけど自分を待っていてくれる人がいる。こんな旅をしたのは初めてです。」というお話をされまして、振り返ってみるとエストニアから来る中学生がどなたが来るのか私達は存じ上げません。でも心待ちにしていたんですね。それがウェルカムな気持ちというものに表現することによって、とても心を開いてくださるということがあったように思うのです。そういう意味ではそのウェルカムな気持ちというのを子ども達が高めていくような仕組みができればうれしいなあと思っておりますし、そんな形の中で、色々な部局横断的に相談をしている中において2020の東京オリパラの時に、エストニア135万人の国ですけれども、この時には佐久ブームが起きているようなことにできないかなあと、エストニアの皆さんが佐久という地域はエストニアとすごく交流があって、とても自分達を歓迎してくれているんだ、応援してくれているんだ、日本に行ったら佐久に行きたいね、という高まりを持ってほしいなあと思っておりますし、逆に佐久市において2020年にはエストニアブームが起きているような、そんな準備をしていく3年間、4年間にできればうれしいと思っております。

そんな中で、それぞれの委員さんからいただいた子ども達の自発的な発想の交流、これもウェルカムな気持ちを高めていくと思っておりますし、地域での交流の高まりというものもそうだろうと、食文化もそうだろうと思っております。日常の情報発信ということが向こうにも伝わっていくということも大切なことだと思っておりますし、大変心強いアドバイザーとして前エストニア大使の甲斐さんがアドバイザーになっていただいておりますので、そんな色々なアイデアをエストニアにどう落とし込んでいけば伝わりやすいのかということもご相談しながら進めてまいりたいと思っております。

今日は本当に糸口を確認できるような会議になれば大変うれしいかなと思っておりましたが、皆さんからいただいた2020の教育プログラムを子ども達が発想の中でこぞってそういった思いが、高揚感が高まるような工夫をしていければと思っておりますので、また定例の教育委員会、あるいは日常において

も教育委員の皆さんのご理解とご指導を改めてお願いをさせていただき次第でございます。

大変駆け足で恐縮でございました。懇談については以上とさせていただきます。事務局の方へお返しいたします。

5 その他

(矢野企画部長)

はい。それでは5番のその他について事務局お願いします。

(佐藤企画課長)

次回の日程についてでございますが、協議内容、具体的な日程については調整させていただきます。ご連絡申し上げます。よろしくをお願いします。

(矢野企画部長)

それでは、以上をもちまして閉会とさせていただきます。ありがとうございました。